

実践教育

- 「実践教育」を学びの基本として、地域農業のリーダーとなる人材育成を教育目標
- 学生一人一人の主体性を育みながら望ましい就農観を醸成
- 各地より農業への熱い思いをもった学生が集い、「未来の担い手」を目指している

将来の担い手になる

水田経営学科2年 小笠原大地（白河実業高校）



私の実家は水稲30haを経営しており、将来は継承して経営者となるため本校へ進学しました。実習では水田の栽培管理に関わりながら、栽培技術の向上を図っています。2年生の卒業研究では、施肥の省力化と移植に必要な育苗箱数の削減を狙い、育苗箱全量施肥に高密度播種を組み合わせた栽培に取り組んでいます。ここで実践したことを生かし、将来は自立した経営者として、経営拡大を目指したいと思っています。

誰もが「うまい」くだものを

果樹経営学科2年 阿部拓海（光南高校）



実家はモモ、ナシ、リンゴを中心とした専業農家です。四代目としてしっかりと受け継ぐため、またいづれはブドウを増やしたいため、本校に進学しました。実習では実践的な技術を学び、マーケティングの講義や直売実習では経営面を学んでいます。将来は農家を継ぎ、学んだことを活かして、誰からも「うまい」と言われる果物を作っていきたいです。

花き生産を支える人材に

花き経営学科2年 鈴木未留（白河実業高校）



県内の主要花きを中心に、実習では開花調節や高収量・高品質、品質保持等の生産技術を学び、栽培技術の向上を目指しています。2年生からは卒業研究として、ダリア巨大輪品種のつぼみ切り出荷に向け、糖の濃度や切り前の違いが及ぼす影響について調査を行っており、ダリアの日持ち性向上を目指しています。将来は、ここでの学びを生かし、花き生産を支えられる人材になるのが目標です。

農業で地域を活性化したい

野菜営学科2年 吉成倭（岩瀬農業高校）



私は非農家出身ですが、将来就農したいと考え、農業経営に必要な専門的知識・技術を身に付けるため、本校を進学先として選びました。実習では、様々な野菜の栽培管理に関わりながら、栽培技術の向上を図っています。2年生からは卒業研究として、ハウスキュウリの整枝管理方法の違いによる収量や生育、作業性に及ぼす影響について試験・調査を行っており、キュウリ栽培の省力化や収量向上を目指しています。将来は、ここでの学びを生かし、農業者として独立し、地域の活性化に貢献することが目標です。

酪農の技術に磨きをかける！

畜産経営学科2年 永瀬 将太（磐城農業高校）



私は、高校で牛が大好きになり、牛のことをもっと知るため、本校に入りました。学科では、乳用牛、肉用牛のどちらも学ぶことができ、牛の管理や搾乳作業を通じて飼養管理の技術を磨いています。私はここで学んだ技術を生かすため、卒業後は県内の酪農の法人に就農することを決めています。就農後もさらに技術を磨き、福島県の酪農生産を担う人材として頑張ります。